

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稲	葉いもち	発生量: やや少	稲こうじ病	発生量: やや少
	穂いもち	発生時期: 平年並 発生量: やや少	斑点米カメムシ類	発生時期: 早い 発生量: 多
	紋枯病	発生量: 平年並	フタオビコヤガ	発生量: 少
夏秋トマト	すすかび病	発生量: やや多	アザミウマ類	発生量: 多
	葉かび病	発生量: やや少	コナジラミ類	発生量: やや少
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: やや少
	アザミウマ類	発生量: 多	ハダニ類	発生量: 平年並
秋冬ねぎ	さび病	発生量: 平年並	ネギアザミウマ	発生量: 多
	べと病	発生量: 少	ネギハモグリバエ	発生量: 多
	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	—	—
きく	白さび病	発生量: 少	ハダニ類	発生量: やや少
	アザミウマ類	発生量: 多	—	—
作物共通	オオタバコガ	発生量: 多	シロイチモジヨトウ	発生量: 平年並
	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並	—	—

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第7号の発行日は8月5日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
メルマガ  
トップページ 登録フォーム



## ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 10 日～16 日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
葉いもち	ー	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /ー)
- (2) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /ー)、降水量は平年並か多く( /±～+)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
穂いもち	平年並 (7月第6半旬:7/26～7/31)	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 中生品種(北部平坦部)の出穂期は7月 29 日頃と予測され、平年(県平均:7月 30 日)並の見込みである。( ±/ )
- (2) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における葉いもちの発病株率は平年を上回って推移しているが、株当たり病斑数は平年を下回って推移している。( ±/ )
- (3) 巡回調査の結果、葉いもちの発生は確認されなかった。( /ー)
- (4) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /ー)、降水量は平年並か多く(ー～±/±～+)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。( ±/±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。( /ー)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並、発病株率は平年よりやや高かった。( /±～+)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
稲こじ病	ー	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。( /ー)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～+)

病害虫名	発生時期 (第2世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類	早い (8月第2半旬:8/6~8/10)	多

#### 予報の根拠

- (1) 中生品種(北部平坦部)の出穂期は平年(県平均:7月30日)並の7月29日と予測されている。(±/ )
- (2) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第2半旬であり、平年(7月第5半旬)より早かった。また、第2世代成虫発生盛期は平年(8月第4半旬)より早い8月第2半旬と予測される。( - / )
- (3) 巡回調査の結果、周辺草地及び本田におけるアカスジカスミカメ成虫、ホソハリカメムシ成幼虫及びクモヘリカメムシ成虫の発生地点率は平年より高く、すくいとり虫数は平年より多かった。( / +)
- (4) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( - / +)

病害虫名	発生時期	発生量
フタオビコヤガ	—	少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / -)
- (2) 幼虫の発生には曇雨天が好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多く( / ± ~ +)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。( / ±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- ・出穂期予測を参考に適期防除を実施する。今後の天候が平年並であると仮定すると、7月16日現在、県内の中生品種(北部平坦)の出穂期は7月29日頃と予測されている。(宮城県米づくり推進本部発表)

### (2) 葉いもち・穂いもち

- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・「金のいぶき」は穂いもちの抵抗性がやや弱いため、穂いもち防除を3回実施する。
- ・直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。なお、7月18日時点では、感染好適条件の連続した出現は確認されていない。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

### (3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。  
※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

#### (4) 稲こうじ病

- ・前年に形成され土壌表面に落下した厚壁胞子が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・銅剤による防除は出穂 20～10 日前が散布適期である。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

#### (5) 斑点米カメムシ類

- ・注意報第1号(7月 19 日発表)を参照。  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06chuiho01.pdf>

#### (6) フタオビコヤガ(イネアオムシ)

- ・防除適期は、成虫発生盛期の7～10 日後の幼虫発生盛期である。有効積算温度シミュレーションの結果、第2世代成虫発生盛期は平年(7月第5半旬)より早い7月第3半旬と推測されるため、必要に応じて直ちに防除を実施する。

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月 31 日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所  
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429  
E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －8月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月12～16日

天候予報:仙台管区气象台7月18日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率および発病株率は平年より高かった。( / + )
- (2) 18～28℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。( / ±～+ )

病害虫名	発生時期	発生量
葉かび病	－	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発病は確認されなかった。( / - )
- (2) 20～25℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / -)、降水量は平年並か多いと予報されている。( / ±～+ )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。( / + )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量は平年並か多いと予報されている。( / -～± )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、寄生頭数は平年より少なかった。( / - )

#### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。

- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

## (2)葉かび病・すすかび病

- ・葉かび病とすすかび病の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに登録のある農薬を散布する。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は10日以上、すすかび病は2週間以上と潜伏期間が長い。よって初発を確認した時にはすでに他にも潜在感染株が存在している可能性があるため、速やかに防除を行う。

## (3)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるため、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## (4)オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

- ・発生予報第6号「作物共通害虫」、防除情報第4号(令和6年7月22日発行)を参考にする。

## (5)トマトキバガ

- ・フェロモントラップによる調査では7月に入ってから県内各地で飛来が確認されているため、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
- ・防除情報第3号「トマトキバガ」(令和6年6月24日発行)を参考にする。

### 農薬危害防止運動施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## —8月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月10～16日

天候予報:仙台管区气象台7月18日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。( / ± )
- (2) 気温 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / ± )、降水量は平年並か多いと予報されている。( / ± ～ + )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生花率は平年より高かった。( / + )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量は平年並か多いと予報されている。( / - ～ ± )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / - )

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生頭数は平年並であった。( / ± )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / + )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少くなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺やほ場内の雑草は害虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- ・植物体の過繁茂は病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。

・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

## (2)うどんこ病

・多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

## (3)アザミウマ類

・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## (4)コナジラミ類、ハダニ類

・ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。

## (5)オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

・発生予報第6号「作物共通害虫」、防除情報第4号(令和6年7月22日発行)を参考にする。

# 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム



## －8月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月10～16日

天候予報:仙台管区气象台7月18日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率はやや高かったが、発病度はやや低かった。( /－～＋)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /－)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～＋)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	少

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度はやや低かった。( /－)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /－)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～＋)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	－	多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年より高かった。( /＋)
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～＋)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	－	多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害度は平年より高かった。( /＋)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /＋)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /－～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	－	多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年より高かった。( /＋)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /＋)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /－～±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず  
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少くなる要因 (空欄)：該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- いずれの病害虫も多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- 病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

### (2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- 多湿（降雨、滞水）により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では、明きよを設けるなど排水対策を行う。
- 草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

### (3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- 近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 10～16 日

天候予報:仙台管区气象台7月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
白さび病	ー	少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /ー)
- (2) 15～20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年より高かった。( /+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや低く、寄生頭数は平年よりやや少なかった。( /ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /ー～±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒して防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・ウイルス病はアザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

### (2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって感染が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、薬剤は葉裏にも丁寧に散布する。

### (3)アザミウマ類、ハダニ類

- ・多発後は防除が困難であるため、ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・アザミウマ類は花への被害を防ぐために、開花前の防除を徹底する。
- ・ほ場周辺の雑草は、発生源となるので除草に努める。
- ・薬剤防除の効果が著しく劣る場合、薬剤抵抗性が発達している可能性があるため、IRAC コードの異なる薬剤を散布する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －8月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月10～16日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月18日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	－	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、大豆の発生地点率及び夏秋トマトの被害果率は平年より高く(/+)、夏秋なすの被害果率は平年並であった。( /±)
- (2) フェロモントラップ調査において、7月1～16日までの誘殺数が前年より多かった(名取市:24頭(前年0頭)、大崎市:162頭(前年104頭))。( /+)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /-～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。( /±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。( /±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /-～±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす、秋冬ねぎ)。( /±)
- (2) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /-～±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

## (2)オオタバコガ

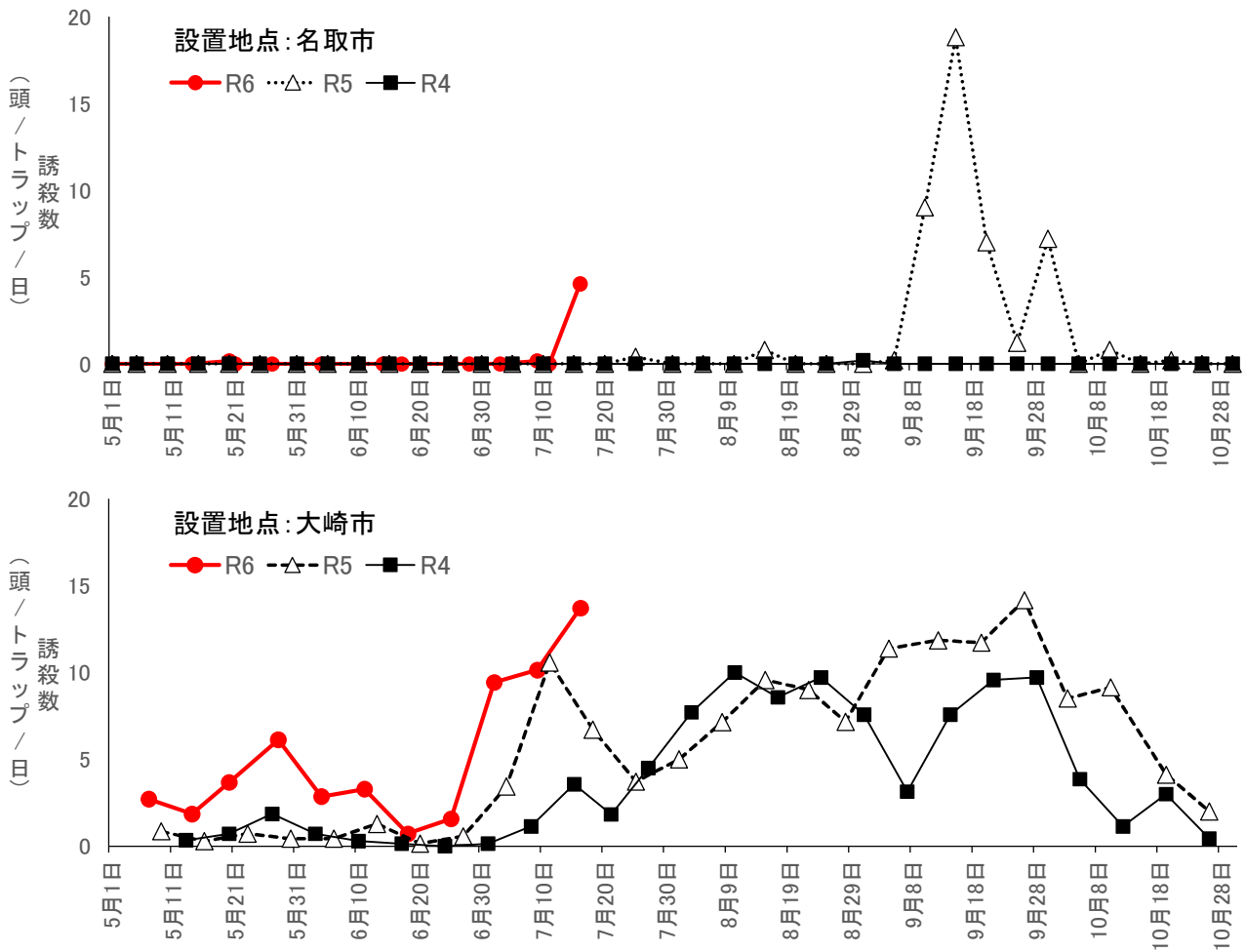


図1 フェロモントラップ調査におけるオオタバコガの誘殺数

・防除情報第4号(7月22日発表)を参照する

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/bojono4.pdf>

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム